

こんにちは
教育委員です



発行:今金町教育委員の会　〔臨時増刊号・大学連携特集〕
〒049-4393　北海道瀬棚郡今金町字今金48－1
TEL:0137-82-3488【No.93】H23(2011).9.1
E－mail:mitsuhiro.nakajima@town.imakane.lg.jp

北海道教育大学＆北星学園大学
〈大学との教育連携特集〉
今金式交流協同連携システム

ふるさとキラメキキャンプ

「みんなのキラメキ」と「ふるさとのキラメキ」を再発見してみよう！

〈教育大学札幌校鹿内信善教授ゼミ学生参画事業〉

昨年は、クアプラザピリカを会場に今金「あそび」と「まなび」のどきどきサマーキャンプとして開催した子どもたちのまなび環境生活習慣改善事業ですが、本年は、種川小学校を会場に７／３０（土）～８／１（月）の２泊３日の日程で開催されました。参加者は、小学４年生～６年生の児童３０名で今年は保護者１６名も参加して実施されました。指導・企画には、昨年に引き続き北海道教育大学札幌校の鹿内教授のゼミ学生９名と本町の特別支援教育支援員５名、栄養士２名（国保病院栄養士、保健福祉課栄養士）、今金小学校教諭、教育委員会スタッフがあたり、合宿長には種川小学校の坂田校長先生に努めていただきました。


開校式


合宿長のお話

初日は、開校式のあと教育大生企画の「アイスブレーキング」でグループづくりや自己紹介でスタートし、「ひみつのクッキング！？～うまくつくれるかな～では、親子で思い思いのポッキーやクッキーづくりが行われましたが、子どもたちは何ができるのか未だ知りません。

夕食交流では、種川婦人会の皆さんの手づくりの味、おふくろの味を満喫しました。

夕食後は、支援員による学びタイムや各自が宿泊する教室での読書タイムが行われました。


ひみつのクッキング

翌日の２日目は、昨日のひみつのクッキングの完成を親子でめざします。ここで、教育大生により種明かしが行われ、昨日作成したパーツがパフェのパーツであることが告げられ大きな歓声があがりました。子ども達にそれぞれパフェ用のグラスが渡され、クリームはコーキング材を使用し苦戦しながらも個性豊かなパフェ作品が完成しました。

午前中のもうひとつのプログラムは、愛情注ぐ生産者訪問！「今金ゆめ食産株式会社（田井中社長）」で椎茸栽培ハウスの見学と収穫体験をしました。


まるで本物の出来栄え！

お昼は、楽しき地産地消「いまかね交流親子クッキング」が町の栄養士２名が担当し、収穫した椎茸ハンバーグを食材に「椎茸豆腐ハンバーグ」、みそ汁、フルーツポンチをつくりました。炊き込みご飯は、ガス釜のアクシデントで残念でした。（人生には色々なことがあります。指導者も良い経験になりました。）昼食後は、ボランティア体験で種川地区にある高齢者福祉施設「豊寿園」での福祉講話（吉田先生）や周辺の雑草の片付けなどを体験しました。夕方は、会場を今金小学校に移し、山寺先生の指導による「今金小学校ｉｎスコアオリエンテーリング」が行われました。


椎茸収穫体験


親子料理実習

最終日の８月１日は、教育大生による「ふりかえりプログラム」で①世界に一つしかないメニュー表の作成②「ここで一句～２泊３日の集大成～」で子どもたちの川柳づくりと発表で笑顔満開になりました。また、ここで支援員からの学びタイムで頑張った児童たちへの真心表彰が行われ、ふりかえりの最後は、開校式からの子どもたちの体験と表情をまとめた「スライドショー」が放映され、子どもたちの心は一つにまとまりました。


今小学びタイム


学生のみなさん

子ども達を通して、保護者や指導者も多くの学び体験を確認し、プログラムが終了しました。教育大生９名も札幌へと笑顔で戻りました。また、学生の企画参加にあたり、ご指導、ご助言をいただきました鹿内信善教授にあらためて感謝申し上げます。

2011 ドリームバスツアー
北星学園大学『今金っ子大学生体験』

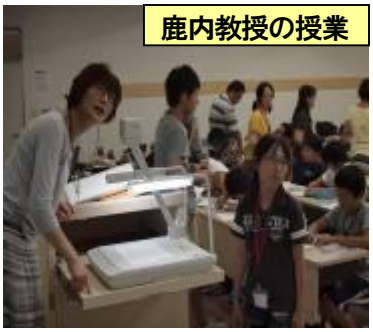
北星学園大と本町は、平成２２年度から特別支援教育支援員の人材提供をいただいていることがご縁で、今回、昨年の北海道教育大学札幌校での大学生体験に引き続き、北星学園大学キャンパスでの今金町の子どもたちの大学生体験が実現しました。


学食体験

参加者は、５４名で小学生４１名、中学生３名、引率１０名です。８／８（月）、子どもたちは、地下鉄大谷地駅下車から体験がスタートし、お昼の

学食体験からキャンパス体験が始まります。（気温は３０度の猛暑です。本当に今年は暑い夏が続きました。）

昼食終了後は、学生たち１３名が企画してくれた４つの大学授業体験プログラム１．思いやり体験（高齢者や障がい者の視界や負担の体験）２．手話で歌おう、３．海外旅行しませんか（諸外国体験）４．あれ！読めない！？（心理学実験）が４グループに分かれ各教室で実施されました。


鹿内教授の授業

共通プログラムは、鹿内啓子教授による授業で「どう見える？見え方のふしぎ」を体験学習しました。夕食は、素晴らしい研修宿泊施設Ｋｉｒａｒｉで先生方や学生たちとのバーベキュー交流でふりかえりながらの楽しい時間を過ごしました。


思いやり探検隊

また、特別企画として実施していただいた「ナイトウォーク」では、大学構内を探索する企画で夜のキャンパス体験、まだまだ昼間の残暑の中でしたが子ども達は、興味津々の探検散歩になりました。

全般的な指導をいただいた鹿内啓子教授をはじめ、教育実習準備室の小島先生、中村先生、学生支援課の桑原課長、学食の酒井店長には大変お世話になりました。心から感謝を申し上げます。


海外旅行


手話で歌おう


あれ！読めない！


バーベキュー

今金町の複式校（種川小学校・美利河小学校）が
～一路「学びロード（国道230号線）」で教育大へ
教育大学札幌校「南極教室」

この事業は、北海道教育大学札幌校の尾関俊浩准教授が第５２次南極地域観測隊員として昨年の１１月下旬に成田を出発し、オーストラリアのフリーマントルで「しらせ」に乗船後、昭和基地にむかわれ第５１次越冬隊とともに本年３月に帰国されましたが、南極での貴重な体験を本町の複式校の子ども達に「南極教室」として授業をしていただきました。


鹿内先生と尾関先生

８月２８日（土）、本町の一行５３名（美利河小児童６名・教諭３名、種川小児童２２名・教諭８名・保護者１１名、特別支援教育支援員２名・町教委１名）を乗せた研修バスと町バスしあわせ号は、一路、国道２３０号線「学びロード」で教育大学札幌校を目指しました。学びロードの命名は、教育大学と今金町との教育的な深い関係を種川小学校の坂田校長先生が「ふるさとキラメキキャンプ」の合宿長を努めていただいた事業の際に使われた言葉です。


南極の氷の音

札幌校に到着すると学生達の出迎えを受け、学食体験からスタートです。開講式では美利河小学校木村校長先生と児童代表の種川小６年蛯名まゆさんからの挨拶の後、鹿内先生と尾関先生により南極教室が始まりました。始めは、南極の「氷の音」を実際に聞く授業が行われました。また、南極の１，０００メートルの深海に入れたヌードルの容器がどうなったのかなど興味深い授業に子どもたちだけではなく引率した教師や保護者も興味深々です。４つのグループにわかれ、低温実験室の－５℃の部屋では水が凍る実験、－２５℃の部屋では南極の氷に実際に触れたり、普通の氷（水道水）と南極の氷との結晶の違いについて尾関先生と安達先生による体験授業が行われました。また、低温実験室での学習はスペースの関係で１グループ毎の体験のため、残り３班は、学生達が南極の世界をクイズ形式で深めていくグループ学習が行われました。

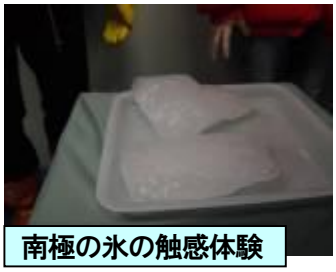

深海千mの実験


氷の不思議体験


学生による班学習

閉講式では、中島教育長と児童代表の美利河小６年樋口陽斗君から、鹿内先生、尾関先生、安達先生、学生の皆さんへお礼の言葉がのべられました。

また、尾関先生からは、南極観測隊に関するスナップ写真（先生のサイン入り）が参加者全員にプレゼントされ、最後に、鹿内先生からのサプライズ報告がありました。それは、今回の南極教室をサポートいただいた学生達は、このあと種川小学校と美利河小学校で９月に実施される「へき地・複式教育実習」に参加する学生達で構成されていて、再会できることを知った子ども達から歓声があがりました。今度は、今金町で学生の皆さんが夢である「教師の道」実現のために子ども達から多くのことを学んで頂ければ幸いです。楽しく興味深い時間を提供いただいた先生や学生達とお別れの時がやってきましたが、バスまで見送ってくれた鹿内先生と学生のみなさんとの再会を誓って、札幌校での「南極教室」が終了しました。大学の関係各位に心から感謝申し上げます。


南極の氷の触感体験


鹿内先生のサプライズ報告